

研究成果報告書

ブロックチェーン技術等を用いた金融システムのガバナンスに関する研究 (要約)

本研究は、今日のインターネットを形成したマルチステークホルダー・ガバナンスの経験から、分散型金融システムの実現に向けたマルチステークホルダー・ガバナンスを明らかにすることを目的としている。

本報告書は、以下の3パート構成となっている：

1. インターネットにおけるマルチステークホルダー・ガバナンスの研究と分析
2. 分散型金融システムのためのマルチステークホルダー・ガバナンスの設計
3. マルチステークホルダー・ミーティングの実施

最初のパートでは、まず、インターネットの成長と進化のためにマルチステークホルダー・ガバナンスがどのように行われたのかを紹介した。ここでは、インターネットの主要な資源の一部を管理する ICANN (Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) の誕生の鍵となる活動の一部に携わった慶應義塾大学の村井純教授へのインタビューからの極めて信頼性の高い情報を含んでいる。インタビューでは、インターネットのマルチステークホルダー・ガバナンスを可能にした重要な要素が明らかになった。次に、ICANN、IGF (Internet Governance Forum)、ISOC (Internet Society)、IETF (Internet Engineering Task Force)、W3C (World Wide Web Organization) の組織構造と仕組みをまとめた。ICANN については、ICANN の仕組みをより詳しく知るために、一部の ICANN キーパーソンへのインタビューを実施した。次に、インターネットの進化における IMSG の役割と有効性、インターネット・マルチステークホルダー・ガバナンスのスケルトンモデルの2つの見解を示した。

マルチステークホルダー・ガバナンスの重要な側面に関する主要な調査結果のいくつかをあげると、以下の通りとなる：

- ICANN の規約にあるように、機能的、地理的、文化的な多様性をコミュニティのあらゆる部分で考慮すべきである。「すべてのコミュニティの声が届く」ようにする必要がある
- 包括的、かつ、透明性があること。これにより、誰もが外から何が起きているのかを正確に把握することができる
- ステーク毎の影響力のバランスと一票のバランスの関係の重要性に注意すべきである

- あらゆることで、コミュニティに意見を問うこと
- レビューやフィードバックに従って、組織の仕組みを継続的に改善していく包括的な仕組みを持つこと

続くパートでは、分散型金融システムにおけるマルチステークホルダー・ガバナンスをどのように実装できるのかを検討している。まず、いくつかのユースケースについて議論した後、分散型金融のためのコミュニティを構築するためのデザインを提示した。ユースケースの分析は、分散化された金融システムがもたらす課題、マルチステークホルダー・ガバナンスを検討する根拠、既存の金融システムガバナンスとの関係などで構成されている。続くデザインの検討では、ユースケースにおけるポイントを踏まえた上で、ICANN の仕組みを再検討しながら、関与すべきステークホルダーの洗い出しについての議論が行われている。その後、モデル、メカニズム、工程表の例を提示するとともに、予想される課題や障害について議論している。

このパートでは、以下のような重要な知見が得られた:

- 分散型の金融システムは、社会的な意味での信用力が全くない状態にある。したがって、この状況を改善するためには、当事者を明らかにし、当事者間で協議し、当事者間の問題解決のための経験を蓄積することが不可欠である。
- マルチステークホルダー・ガバナンスは、①技術開発の加速（イノベーション）、②信頼性の向上（トラスト）、③公平性の担保（フェアネス）、という三点において有効である。
- 政府など既存の金融システムガバナンスの主演は、経験に基づいて分散型金融システムガバナンスを検討する際に、国際的なアプローチとグローバルなアプローチの違いを十分に理解しておく必要がある。
- グローバルアプローチでは、マルチステークホルダー・ガバナンスにおける会議体は当然常設されるものだが、その会議体は静的または間欠的に開催されるものだけでなく、何らかのアジェンダについては 24 時間 365 日休むことなく検討が行われることが期待される。協力の対象は、エンジニアリングの積み上げやガバナンスの改善といった「平時対応」と、システムリスク抑制や市場への協調介入（あるいはその支援）等の「有事対応」に分けられる。
- 理念を構成する要件として、トラストレス、ポリセントリック、ダイバーシティの 3 つの概念について理解を深める必要がある。
- 分散型金融システムの知見をより深く得ることで、エンジニアリングに関する新たなパラダイムや経験を獲得（またはそうした先進的エンジニアリングへのアクセス）が可能となる。これは、広義の金融システム安定化に貢献する可能性がある。

- 分散型金融における課題解決の検討体制が安定的に維持・拡大するためには、少なくとも、相対性、多様性、連続性という3つの特性を満たしていることが期待される。

最後のパートでは、マルチステークホルダー・コミュニティの構築を目指した会議の設計について説明している。この国際会議は COVID-19 の流行により想定した規模では実施できなかったが、本報告書では会議開催に向けたイベントの準備と貢献の成果を示している。

本研究は、分散型金融におけるマルチステークホルダーガバナンスフォーラムの基礎的な議論材料として利用できると思う。